ラサで私も考えた

深澤　裕

◎期間　２０１９年７月３１日（水）～８月１４日（水）

この夏はヒマラヤ山脈の北、インダス河やヤルツアンポ河の源流が流れ出る最奥の地、チベット人の聖山、カイラスの巡礼に行く予定でした。しかし今年は断念し、３７００ｍの聖地ラサに行くことにしました。

チベット文化に初めて触れたのは１９８２年８月の観光客に開放されたばかりのラダック・レーの旅でした。３７年前。この時、レーの町の高台にあったポタラ宮のような巨大なゴンパ（寺）に行きました。このゴンパの中には曼陀羅が描かれ、多くの宝貝が奉納されていました。この時の印象が強く、いつかラサのポタラ宮には行きたいと思っていました。

６月。飛行機のチケットを取り、ラサのＧＨを１２日間予約しました。気分はもうラサでしたが、パミッションがないとラサの空港から帰国させられるということが分かりました。早速現地の旅行会社にメールで問い合わせると、一人旅でもツアーを組む必要があることがわかりました。かなり厳しい審査があり地元の警察や公安など４個所もパスポートの申請をするとのこと。

チベットエリアとウイグルエリアは最も入国審査が厳しい事もわかりました。パスポートのコピーをメールで送り手続きをし、中国政府の許可が下りたのが旅行１０日前でした。早速ツアー料金を振り込み、パミッションを東京の自宅に郵送するように頼むと、中国現地でしか渡せないと言われました。私は福州空港で１３時間のトランジットがあったので急遽、福州のホテルを予約し、そこのホテルでパミッションを受け取るという事にしました。

全く驚きの展開でした。３１日夜、９時に福州のホテルにチェックイン。レセプションでパミッションの事を尋ねると「そんな物、届いていない」と言われました。これでラサには入れないのかと焦りましたが何とかそのホテルでパミッションが見つかりました。８月１日は早朝５時起き。福州空港に６時着。７時発のラサ行きの飛行機に乗ることができました。

■ラサ　８月１日（木）晴

ラサは大都市でした。ゴンカル国際空港でパミッションをチェックされます。空港から出るとガイドのＫさんが迎えにきてくれていました。日本語が少し話せるチベット人のガイドです。１２日間お世話になります。入国を祝い、カタ（おまじないの白い布）を首に巻き付けてくれました。市内まで高速道路が整備され約一時間で市内です。市内に入る前、セキュリティーチェックがあります。降車し、パスポートとパミッションのチェックです。街は周りを岩の山々に囲まれ、盆地の中にあります。

私の泊まるＧＨは風馬飛揚旅舎（Tibet Bike GH）という旧市街の路地裏の家族経営の GH で雰囲気が良かったです。レセプションは英語が通じるし、１２泊１０８０元（約１８０００円）というのはあり難かったです。３ベッドのドミトリーでしたが最初の一週間は他の客が居なかったので独り占めでした。

河口慧海は１００年前のラサを「道の悪いことといったらしかたがない。高低の多い所で、町の真ん中に深い溝が掘ってある。その溝には、ラサ婦人のすべてと旅行人のすべてが、大小便を垂れ流すという始末で、その縁には人糞が行列をしている。その臭いことといったら、たまらんです。」「ラサというのは神の国という意味で、いわゆる仏、菩薩すなわち外護の神様の住処で、非常に清浄な土地であると

いうところから、神の国という名をつけられたのである。」「ラサには糞喰い犬が沢山おりますけれども、ナカナカその犬だけでは喰いきれない。犬も糞の新しいのは悦んで喰いますけれども、古いのは喰わない。だから古い奴が沢山残っていく勘定になるのです。屎尿が沢山ある道の傍に井戸があって、その井戸から水を汲み出して呑むというのですから、随分衛生上にはこれほど悪いことはあるまいかと思われる。」（チベット旅行記）とラサの衛生状態をめちゃくちゃに言っています。今のラサには立派で清潔な公衆トイレが幾つもありトイレ清掃の女性が常に掃除をしていました。有料かと思いましたが無料で使用できます。

早速、Ｋさんと一週間の予定をたてます。何しろ、ゴンパ（寺）に行くにはセキュリティーチェックがあり、必ずガイド同伴でないと入れないのです。

■ジョカンゴンパとパルコル（八角街）トムセカン市場８月２日（金）～３日（土）曇

ラサの旧市街の中でも一番賑やかな地域です。店が密集し露天も多く、興奮しました。ガイドのＫさんに付いていきます。一人だと迷子になりそうな路地が続きます。ジョカンゴンパで五体投地を初めて見ました。よく見ると、一度合掌した手を頭、口、胸の前と順に下ろし、ゆっくりと大地に身を投げ、一直線に手足を伸ばし、額まで土につけ、両手を掲げて拝し、それを伸ばした指先のところに印をして立ち上がり、そこまで進んで、前と同様に投地礼拝し、身体の長さだけ尺取虫のように前進するという作法でした。気の遠くなるような投地礼拝で何千キロも離れた村から来る巡礼者も多いと聞きます。

「ラサへの歩き方　祈りの２４００ｋｍ」という映画を思い出しました。この映画はチベットの小さな村から聖地ラサ、そしてカイラス山へ。遥か２４００ｋｍを五体投地でほぼ一年かけて歩く１１人の村人の巡礼旅を記録したロードムービーでした。途中で出産あり、交通事故ありと凄い巡礼旅でした。
ジョカンゴンパはチベット人にとって憧れの聖地です。寺の中はバターの灯明が炊かれ、暗闇の中で炎が揺れています。お布施が至るところに挟み込まれています。中は黄金が多く使われているので日本の寺のようなわびさびの世界とは全く違いギラギラした世界です。

ゴンパの周りはパルコル（八角街）といってゴンパの周りを廻る巡礼路になっています。朝から夜中までチベット中から多くの巡礼者が訪れます。マニ車を持ち、回しながら何度もパルコルを回るそうです。お年寄りもいます。車椅子の方もいました。五体投地で回る巡礼者もいます。時計回りの一方通行です。皆さん一所懸命で歩いています。真剣さに打たれます。チベット人は輪廻転生を信じているそうです。

パルコル周辺はトムセカン市場と言われ、ラサの旧市街で浅草のような所です。人波と雑踏で仏具・

仏像・教典・線香・僧具などの他、バター・肉屋・食糧品屋など雑貨店で溢れています。クルミ売り・桃売り・果物売り様々な露天も多く出ていました。

（肉屋）

（八百屋）

だいたい四階建ての石造りの建物に囲まれ、ヨーロッパの地方都市に迷い込んだような印象でした。屋上にタルチョ（五色の旗）がたなびいています。ここはイタリアの田舎町かと思える造りです。もともとラサはジョカンゴンパの門前町として形成されたようです。古地図をみるとジョカンゴンパとポタラ宮しかありません。今は６０万人の街になっていますが、１９５０年頃は６万人だったそうです。

１９８０年に中国共産党が仏教を解禁すると、ラサを訪れた巡礼者は１００万人もいたそうです。ここには慧海が訪れた頃と同じ空気が流れているように思いました。

■ポタラ宮８月４日（日）雨

８月は雨期なので雨ですがポタラ宮に行きます。ここもセキュリティーチェックがあります。ポタラ宮周辺に入るのにもパスポートとパミッションのチェックです。この日はもう一人の日本人と私の二人をガイドのＧさんが案内してくれました。Ｇさんはモンゴル人で日本に６年滞在したのでかなり詳しい情報が頂けました。「警察や公安には絶対カメラを向けてはいけない」「ここのチケットを手に入れるのは大変苦労する。」そういえばチケットに私の名前とパスポート番号が打ってありました。ポタラ宮に入る時刻も指定されていました。

（ポタラ宮）

私たちは１０時４０分の入場です。入ったら１時間以内に見学を終えなければならないそうです。驚きます。漢人（中国人）やチベット人にはそのようなチェックはありませんでした。しかし世界遺産に登録されてから入場者数が増えたので、来年から入場禁止になるようなことをガイドは話していました。

（マニ車）

外国人観光客や漢人は入場料２００元（約３４００円）。

チベット人は無料でした。ここのチケットは手に入れるのが難しくＧＨで一緒だった漢人のＲさんは朝７時から並んでやっと買えたと喜んでいました。ダフ屋も出るらしく、一枚８００元（約１３０００円）もするそうです。

ここはかつて歴代のダライラマの住居であり、ラサの行政府でもあった所だそうです。中には歴代のダライラマの黄金や宝石に包まれた墓があります。もの凄い量の黄金や宝石が使われています。目のくらむような作りです。中に住む僧侶達のための食堂や酒造所や工場など生活ができるような施設も設置されていたそうです。ローマのバチカンに匹敵する巨大宗教施設だと思います。

■セラゴンパ　８月６日（火）晴

（セラゴンパ）

ラサにはジョカンゴンパやポタラ宮以外にセラゴンパとデブンゴンパとガンデンゴンパなど大きな寺があります。ラサ三大寺と言われています。これらは日本流の寺ではなく、大学院であり、それぞれ修行僧数千人を抱える全寮制の仏教大学でもありました。

セラゴンパは河口慧海が修行した寺として有名ですが。かつては５０００人以上もの修行僧を抱えていたそうです。しかし、１９５０年の中国共産党の侵攻でダライラマ１４世がインドに亡命したとき、１０万人もの僧がダライラマに従ってヒマラヤを越えインドやネパールに行ったそうです。現在は５００人位の僧が修行しているそうです。ラサの北３ｋｍに位置し、１４１９年に創建されたそうです。ここには年老いた僧たちのための施設がありました。食事と住まいを提供しているそうです。

■デブンゴンパ８月７日（水）雨

デブンゴンパはラサ市街から西北８ｋｍにあります。１４１６年に創建されたそうです。ダライラマ５世までが住んだ宮殿が残されていました。ここも嘗ては１００００人近い僧が修行していたそうです。破壊された僧院は未だ回復にはほど遠いようです。

■ガンデンゴンパ　セタン祭　８月８日（木）雨

７時ＧＨを出発。この日は雨模様でした。寺は山の頂上にありました。約１時間３０分ラサの東８０ｋｍハイウェーを走り、車は雲に隠れた山頂を目指して蛇行する道を登ります。途中は牧場で、ヤクや牛が放牧されています。今日はセタン祭だというので車が混んでいました。観光客も多く人気のある祭りのようですが、雨のため巨大なタンカ（曼荼羅）の展示は中止になりました。ここも１９６０年代文化大革命で破壊された僧院は回復にはほど遠いようです。　（ガンデンゴンパ⇒）

（同　寺の中）

（チャクポリ＜薬王山＞）

■西蔵清真大寺　ムスリムエリア　　８月１２日（月）晴

ラサにも慣れ、旧市街の南側の路地を一人で徘徊していたら突然モスクが現れました。何でモスクが。実はラサは仏教徒だけの街ではなく、ムスリム（回族）も多く暮らしている街でした。このモスクは西蔵清真大寺といい１６５５年頃に作られたといいます。イスラムの白い帽子を被った人も増えてきます。４００年前から仏教徒とイスラム教徒は混住していたのです。チベット人のＤさんに聞くと「ラサには今、１万人の回族が住んでいる。日常生活では食事や生活スタイルも違うので回族とチベット人はあまり交流していない。漢人は豚肉を食べるので殆ど一緒に食事はしない。しかし小学校では一緒に勉強する。」と言っています。

ラサで私も考えた。

中国共産党政府は何に怯えているのでしょうか。チベットの独立を願うチベット人は多いでしょう。しかし、こんなに暴力的な警備体制を取って解決できるのでしょうか。街角に立つ武装警官。厳しいセキュリティーチェック。私がいままで旅をしたどこの街にもラサ以上の酷い所はなかったです。

ガイドのチベット人Ｋさんと旅行会社社長のチベット人Ｄさんに話を伺いました。結婚について。チベット人同士、漢人同士の結婚は普通にあるが、チベット人と漢人が結婚すると国から毎年１００００元（約１７万円）が支給される。５年間も支給されるという。これは小数民族チベット人の漢人化政策なのか。小学校では中国語で授業が行われているそうです。チベット語は週に２時間しかない。教員も殆ど漢人だそうです。チベット語を滅ぼし漢化する。これはチベット文化を滅ぼす政策なのか。嘗て創氏改名を行い、朝鮮の子どもたちに日本語を教え込むことで朝鮮文化を根絶やしにしようとした日本帝国主義が行ったことと似ています。

ＫさんＤさんは「一人で散歩するときは財布やパスポートに気をつけて。漢人たちにすられないように。」と言う。チベット人の漢人に対する敵対心は無意識にあるのでしょうか。ＧＨで５人の漢人の若者と一緒になりました。一人は香港からやってきたＢさん。彼は１６日間かけてチベットを旅行しているという。Ｃさんは上海からオートバイに乗って６日間かけてラサまで来たという。「仕事は何をやっているの？」と聞くと「無職」と応える。じゃ自分と同じだと大笑い。一緒にビールを呑みました。一ヶ月くらい旅をすると言います。自由人でした。

Ｄさんは叔母さんと妹と母親の４人でやってきました。家族は別の部屋に泊まり、彼だけこの部屋でした。四川からやってきたという。２日ほどラサに泊まり５０時間かけて列車でまた四川に帰るといいます。中国は広いです。

Ｒさんは中国国籍で日本の永住権を持っています。彼は小学校４年生から日本で暮らしているので日本語の会話が上手い。２４歳。今は会社を辞めて一ヶ月の有給休暇をもらって旅をしているといいます。９月から新しい会社で働くので復帰できるかちょいと心配だと話していました。これからカトマンズに出てバンコク経由で帰国するそうです。

Ｙさんは静かな漢人で湖南省から来ました。私が四階の屋上で読書していたら、屋上から見えるポタラ宮のスケッチを始めました。

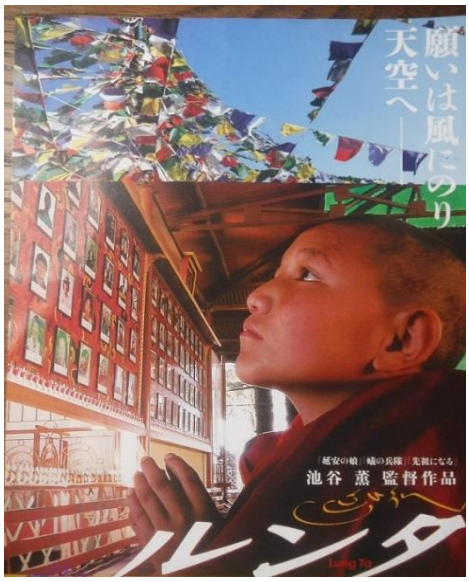
１２日間も泊まると自分のお気に入りの場所ができてきます。私のお気に入りの場所が４階の屋上です。椅子とテーブルがあり、まわりの眺めが心地よい。午後２時頃になると隣のツエンムリンゴンパからマイクに乗った読経が流れてきます。読経を聞きながら読書します。私の部屋に泊まった漢人たちは皆優しく、穏やかな人達でした。

２００８年、西寧鉄道が通って以来、漢人たちが流入しているそうです。彼らは中国政府の西部大開発方針でラサの経済活動を活性化させているといいます。巨大なビルやマンションや工場がどんどん造られています。しかし、工事をやるのは中国本土の会社、儲けは本土の会社が持っていくそうです。チベットの人たちには金が落ちない仕組みのようです。

（トウクパとモモ）

「チベット人は１番が宗教。２番が仕事。中国政府の、西部大開発はチベット人には合わないよ」とチベット人のＤさんは言います。「チベット人によるチベット人のための仕事、企業を多く立ち上げるべきだ」と盛んに言っていました。
旧市街の裏通りを眺めるとチベット人の男性はけっこうふらふらしています。仕事が無いのでしょうか。

チベット食堂でトウクパ（麺）やモモ（餃子）やダルバート（定食）などを食べていると、店内で暇そうな男性たちがゲームに夢中になっている姿を見かけます。仕事にあまり興味がないみたいです。女性は逞しく働いています。飯を喰っていると、托鉢の僧がずかずかと入ってきてお布施を要求します。チベット人の客は皆さん当たり前にお布施（お金）を渡します。街中にも托鉢僧は多く、お布施を要求しています。やはり、仏教が浸透しているのでしょうか。



（ルンタのチラシ）

７月、「ルンタ」という映画をみました。チベット焼身抗議自殺を描いたドキュメンタリー映画です。チベットでは中国政府の圧政に対して自らに火を放ち抵抗を示す「焼身抗議自殺」が後を絶たないそうです。２０１５年3月３日現在で１４１名のチベット人が焼身抗議自殺しています。焼身抗議自殺の背景をこの映画パンフから少し引用します。「１９４９年、中華人民共和を樹立した毛沢東は直ちにチベットに侵攻。２年後チベットは事実上中国の支配下に置かれた。１９５９年ダライラマ 14 世はインドのダラムサラに亡命。後を追うように約１０万人のチベット人がヒマラヤを越えてインドやネパールに亡命した。

２００８年、北京オリンピックを目前に控えチベット全土でチベット独立の平和的デモが発生すると、中国政府は容赦のない弾圧を加え、ラサだけでも２００人を越えるチベット人が命を奪われた。これに

よりチベット人の中国政府に対する不信感が高まり、今も増え続ける焼身抗議自殺の誘因となった。」

チベット人にとって焼身自殺でなくてはいけないそうです。自分の体を焼いて灯明のようにして命を捧げることが大事だそうです。練炭自殺や首つり自殺や飛び込み自殺ではいけないそうです。

１９８９年３月。ラサで大規模な抗議行動が起き、戒厳令が５月まで続いたそうです。１９８９年６月４日は北京天安門事件も起こり、民主化運動の波が中国中を覆った年でもあります。

２００８年３月１０日。トムセカン市場で僧侶がチベット国旗を掲げて抗議行動を行いました。ラサの厳戒状況はこれ以来続いているそうです。

NATIONAL GEOGRAPHIC の８月号を読んでいたら、ダライラマ１４世のインタビュー記事が載っていました。ダライラマ１４世がどのようにラサを脱出したのか。中国共産党によるチベット人民への虐殺がいかに凄かったのか。ダラムサラでの最近の生活など詳しく書かれていました。何ともやり切れません。

Ｒさんが公衆トイレで働くチベット人清掃員の女性と仲良くなり、話を聞いたことを私に話してくれました。「女性は、一ヶ月３千元（約５万円）の給料をもらい、１００元（１７００円）の宿舎に住んでいる。母子家庭で小学４年生の子どもと二人暮らし。勤務時間は一日１３時間。休みは月に３日。自宅から３０分バイクで通勤している。勤務時間が長いので子どもと接する時間がないのが辛い。しかし今の生活には満足している。」と語ったそうです。ラサの公務員の給料は１万元（約１７万円）なので清掃員の女性の生活は劣悪だと思うのですが、この凄まじい勤務実態を我慢しているのか、諦めているのか知りたくなりました。

なるべくチベット人レストランで飯を喰い酒を呑む。「タシデレ」と挨拶をし、なるべくチベット人のためにお金を使おうと思いました。托鉢の僧が入ってきたらお布施をあげる。どうだったのでしょう。

お土産屋のチベット人のおばさんにけっこう吹っかけられましたが「タシデレ」と笑顔で挨拶しました。冷やかしで買い物をしていましたがチベット人のおばさんは最初１０倍くらい高い値段を言ってきます。驚きました。何件も店を回ってくると相場がわかりますが、チベット人のおばさんは商売上手でした。

香港では「逃亡犯条例」に対する抗議行動で１７０万人デモが行われています。（８月１８日）隣の中国側の街には中国軍が大量に結集していると報道されています。天安門事件のようにならないように願っています。

ウイグルエリアでは何万人もの住民を強制収容所に隔離し、「漢人化政策」を行っているというので、中国政府は世界中から非難されています。中国では中国政府の夢を実現するため反国家主義的分子を生み出さないように極端な監視体制が作られています。外国人観光客など特に監視対象になるのでしょう。

しかし、国民や観光客を監視しなければ維持できない国は、いずれ危機を迎えるでしょう。治安維持法をみればわかるように戦前の日本の教訓でもあります。少なくともチベットでの選挙を行い、チベット人の民意を国の政策に繋げるように制度を変えるべきだと思いました。今は中国共産党からのトップダウンの政策のみ。チベット人の民意は全く反映されていません。ライフルを手にした武装警官を眺めながら旅行者はそう思いました。

FREE　TIBET　　２０１９年8月２７日 記

※次ページに旅程と概略経費を記載

［LHASA　Itinerary］

期間　2019 年 7 月 31 日(水)～8 月 14 日（土）（15 日間）

日　時	行　　程（BUS 交通費）	宿　泊　先
7 月 31 日(水)	NRT15：30 発→福州 18：10 着 MF0810　　トランジット 13ｈ ※TTP（入境許可証）外国人旅行証	福州五一中路　1 泊 ¥2907
8 月 1 日(木)	福州 7：10 発→ラサ 13:40 着 MF8411　空港→ラサ（タクシー）	風馬飛揚旅舎 Tibet Bike GH　12 泊 ¥18020
2 日(金)	トムセカン市場　バルコル周辺	
3 日(土)	ジョカンゴンパ　　バルコル周辺	
4 日(日)	ポタラ宮殿（タクシー）ソンキョルカン	
5 日(月)	バルコル周辺	
6 日(火)	セラゴンパ（鳥葬場）チャクポリ　（タクシー）	
7 日(水)	チャクポリ　　デブンゴンパ（タクシー）	
8 日(木)	ガンデンゴンパ　セタン祭（タクシー）	
9 日(金)	バルコル周辺	
10 日(土)	セコル（ポタラ宮　巡回路）	
11 日(日)	自由行動（映画　Ne Zha ）	
12 日(月)	西蔵清真大寺（モスク）ムスリムエリア	
13 日(火)	ラサ→空港（タクシー）ラサ 14:25 発→重慶→ アモイ 20:25 着 MF8468　　トランジット 10ｈ	
14 日(水)	アモイ 7:00 発→福州 7：50 着 MF8557 トランジット 1h45m 福州 9:35 発→ NRT13:40 着 MF0809	

※飛行機代¥96,490　個人ツアー代¥236,000　宿泊代（13 泊）¥20,927　計 353,417 円

（１元＝１７円）

（了）